

財団法人 損保ジャパン美術財団

平成20年度(2008年度)事業計画

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

I 方針

1. 展示活動を活発に行い、多くの人々に親しまれる美術館として美術・文化の振興につとめる。
 - (1) 特別展においては当美術館としての特性を生かし、国内外美術館等から優れた美術品を招致する。
 - (2) 館外展を含め館蔵作品の貸し出しを通じて、国内外地域との文化交流を図る。
 - (3) 美術鑑賞支援の新しい仕組みを導入する。
2. 優れた美術家の表彰ならびに支援によって美術界の発展に寄与する。
3. 社会教育、特に青少年を対象とした教育・普及活動を推進する。

II 事業

1. 損保ジャパン東郷青児美術館の運営

(1) 美術作品の収集、保存、公開

① 特別展

1) 没後50年「モーリス・ド・ヴラマンク展」

(平成20年4月19日～6月29日)

強烈な個性と激しい作風でよく知られるモーリス・ド・ヴラマンク。没後50年を記念し、フォーヴ時代の作品を中心に初期から晩年までの作品約70点で偉大な画業を紹介する。

2) 生きる喜び「アンドレ・ポーシャンとグランマ・モーゼス展」

～ 自然を愛した画家からの、心暖まるメッセージ ～

(平成20年7月5日～8月31日)

自然豊かな、農民の日々の暮らしを扱った作風によってアンル・ルソー同様、ナイーブ・アート(素朴派)として知られるようになったアンドレ・ポーシャン、グランマ・モーゼスの作品約60点を紹介する。

3) 西洋絵画の父「ジョット展」

～ ジョットとイタリア美術の遺産 ～

(平成20年9月13日～11月9日)

ミケランジェロがデッサンの手本とし、ダ・ヴィンチが「過去何世紀の画家たちを凌駕した」と畏怖したジョットの作品とともに、彼から影響を受けた同時代の作家たちの作品など約40点でルネサンスの夜明けを紹介する。

- 4) 丸紅創業150周年記念「丸紅コレクション展」
～ 衣裳から絵画へ美の競演 ～

(平成20年11月22日～12月28日)

わが国屈指の企業コレクション「丸紅コレクション」の中から、ポッティチェリの珠玉の名作「美しきシモネッタ」をはじめ、印象派を中心とする絵画と時代衣装などの染織約100点を紹介する。

② 企画展

- 1) 損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念「元永定正展」

(平成21年1月10日～2月22日)

「損保ジャパン東郷青児美術館大賞」を受賞した作家、元永定正の初期作品から最新作まで約60点で作家の画業の全貌を紹介する。

- 2) 第28回損保ジャパン美術財団「選抜奨励展」

(平成21年3月7日～3月29日)

36公募美術団体展で「損保ジャパン美術財団奨励賞」を受賞した平面作品36点、さらに全国の推薦委員により推薦された平面作品約30点を展示。あわせて展示作品から優れた作品を選考、表彰する。

③ 併設展示

- 1) 常設展示コーナー

ゴッホ「ひまわり」、ゴーギャン「アリスカンの並木路、アルル」、セザンヌ「りんごとナプキン」を常設展示する。

- 2) 所蔵作品展示コーナー

各展覧会とも開催期間中、所蔵作品展示コーナーを併設し、東郷青児作品ならびにグランマ・モーゼス作品他を展示する。

④ 館蔵品・資料・文献の充実

- 1) 館蔵品の修復・点検

館蔵品の保存状態を的確に把握するため定期的に点検および記録写真の撮影を行い、作品の劣化防止に適切な手段を講じるほか、必要に応じて作品の修復、額縁の修理・取り替えを行う。

- 2) 資料・文献の収集・整備

館蔵品および展示作品に直接あるいは間接的に関連した資料・文献を収集し、学芸研究および展示活動の充実を図る。

- 3) パソコンの有効活用による資料・文献の収集・整備

パソコンの有効活用を図り、資料・文献の収集・整備、インターネットの活用による他館情報などの入手を積極的に行う。

(2) 展覧施設の運営管理

① 調査・研究

1) 学芸職員の研修

適切な指導・助言のもとに資料研究あるいは保存・展示技術の研修を進める。
また、学会や各種機関の研修会・講座などに参加するほか、特色ある美術館や展覧会の見学などを通じ、学芸員の能力向上を図る。

2) 各種図録・解説書の刊行・頒布および説明会の開催

各種展示の理解を助けるため、図録、解説書を作成するほか説明会などを随時開催し、展覧会の充実に役立てる。特に、青少年を対象とした解説書の作成、説明会の実施などを積極的に推進する。

② 公共への協力

1) 博物館実習生の受入れ

各大学からの学芸員資格取得のための博物館実習生の受け入れ要請に協力する(10大学10名予定)。

2) 施設・資料の共用

公共体、教育機関あるいは美術研究家等からの美術に関する調査・研究・実習による施設および資料共用の要請に対し、可能な限り協力する。

3) 新宿区との連携

美術振興に協力する。

③ 他美術館との連絡・協調

1) 博物館会議、美術館会議などに出席して情報の交換を行うほか、随時見学等を行い、他美術館との連絡・協調を密にする。

2) 美術品の貸し出し(館外展を除く)

グランマ・モーゼス19作品を以下の展覧会に貸し出す。
生きる喜び「アンドレ・ポーシャンとグランマ・モーゼス展」
福岡県立美術館(会期 4/24～6/1)

④ 教育活動

1) 学校など外部機関の教育活動としての美術館利用に協力し、教育活動の実を上げる。

2) 美術鑑賞支援策として対話型鑑賞の仕組みを導入する。

⑤ 広報活動

1) マスメディア

新聞、雑誌、テレビ等マスコミの取材に積極的に対応するほか、インターネットの積極的活用を含め広告媒体についても多様化を進め、展覧会および美術館の広報を行う。

- 2) ホームページ(インターネットによる発信)
ホームページにおいて自館の展覧会情報、所蔵作品情報とともにゴッホ美術館
関係の情報提供を行っていく。

2. 助成関係事項

(1) 優秀な美術家の表彰

- ① 損保ジャパン東郷青児美術館大賞の授与
第31回(2007年)受賞者の表彰を行い、賞状と賞金200万円を贈呈する。
- ② 損保ジャパン東郷青児美術館大賞の選考
第32回(2008年)受賞者を1名選考する。(平成21年3月の予定)

(2) 新進美術家の育成援助

- ① 損保ジャパン美術財団奨励賞を36団体の公募展に授与する。
- ② 損保ジャパン美術財団選抜奨励展及び同展における優秀作品の表彰
第28回展となる本展では、各団体の奨励賞受賞作家の作品と推薦委員から推薦された作家の作品を加えた展覧会を開催し、出品作品の中から優秀な作品を選考、表彰する。
展覧会は共催新聞社の協力を得て広報宣伝に努めるとともに巡回展の開催を検討し、新進美術家支援を積極的に推進する。

以上